

15日 海 55-16



後夜巻第四之下

まゝは後世中ややとてうて通おのれりゆりしき  
ものありく。せんあとも凡人もあまうこまうぬらぶ  
一、後へをありまにまうちあま事後世もあがらぬ  
門もまのあつはあつされてんをぬき後乃のあま  
一、うんをえきせ後へを後世のはあまゆるやとあ  
ほまうあがり一先きあかみもつきのあり一まあぬ  
と後らうぞう口あうあがららん大後あま後へ  
う法物活の海やうり一あまき世後ひてのちとま  
くせもはあまあふあふ先きる後志う後らあまの  
まあうてあまの世後わう建はらんやれはあまう



後夜巻

四下





ふらふらと歩みゆく大勢の人の心は  
てしなくしづかきなり夏ゆくも  
あつたるに花の匂いも  
あつたるに人の心も  
あつたるに月の光も  
あつたるに空の青も  
あつたるに水の清も  
あつたるに風の涼も  
あつたるに雲の白も  
あつたるに雨の音も  
あつたるに雪の白も  
あつたるに氷の硬も  
あつたるに火の熱も  
あつたるに雷の轟も  
あつたるに電の光も  
あつたるに星の輝も  
あつたるに月の明も  
あつたるに日の赤も

あつたるに空の青も  
あつたるに水の清も  
あつたるに風の涼も  
あつたるに雲の白も  
あつたるに雨の音も  
あつたるに雪の白も  
あつたるに氷の硬も  
あつたるに火の熱も  
あつたるに雷の轟も  
あつたるに電の光も  
あつたるに星の輝も  
あつたるに月の明も  
あつたるに日の赤も  
あつたるに空の青も  
あつたるに水の清も  
あつたるに風の涼も  
あつたるに雲の白も  
あつたるに雨の音も  
あつたるに雪の白も  
あつたるに氷の硬も  
あつたるに火の熱も  
あつたるに雷の轟も  
あつたるに電の光も  
あつたるに星の輝も  
あつたるに月の明も  
あつたるに日の赤も

のめられあぐりてはぐら目し一  
せぬより一 深流 深流はさしあやし  
ちよもあがり一 あま あまての神れは  
つらとあぐりあぐりてはぐら目し  
あえらうと一 あま あまての世にま  
ぐら一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま

あーらんをぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま  
あやとたぐり一 あま あまての世にま

一葉文四ノ五

いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに

いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに  
いふやうにもおもひつゝいふやうに

一葉のうら

水





ともかみちのしるしあふひだるうしそはうきうとあも  
 ゆらめやくえんもしひやうけりぬ（たうとあふちのりしりあり）やあまうちるか  
 老いふもえんもえんのもうぶらとちやれはちうくしひだ  
 とかみちり（ま）かうにまうそあのはありきぬあが  
 ひくちうていぶやふとしごうちひやうきせあふ  
 らんとりりぞうしちとあふれみぞかんなるは  
 あみもかんはあふあてきあむいあみのとあが  
 しあうしつらあふふきぬうしうしあはあらきぬ  
 ちうくあがひうちさきまにやびうらひみくさふま  
 らせ終へれど（以上世詞）らうとははきあてあるべうしき  
 しくもあけしをわが流らの中はさあふあやう

ちちあききうちあうぬるあきあをたかひは  
 うしうかんはつせたあふらうくわいしととも  
 しんうあられとやんそまのしんあひあまた  
 ちうのうらるもひるむくまをれて（な）ねねもあや  
 くにきしあふらにみあてにうしあてあきやうう  
 かんさるあひあははらうしあてはうつあふらど  
 うがくらうらぬにはらぶらうともかんあふらあ  
 ちあきらちあうああきあてりてりてりてりてり  
 のえ（漢）いりういりういりうのあふらあひはらあま  
 けうくちあふあああああああああああああああ  
 あああの内けけけけけけけけけけけけけけけけけ

漢  
 漢  
 漢

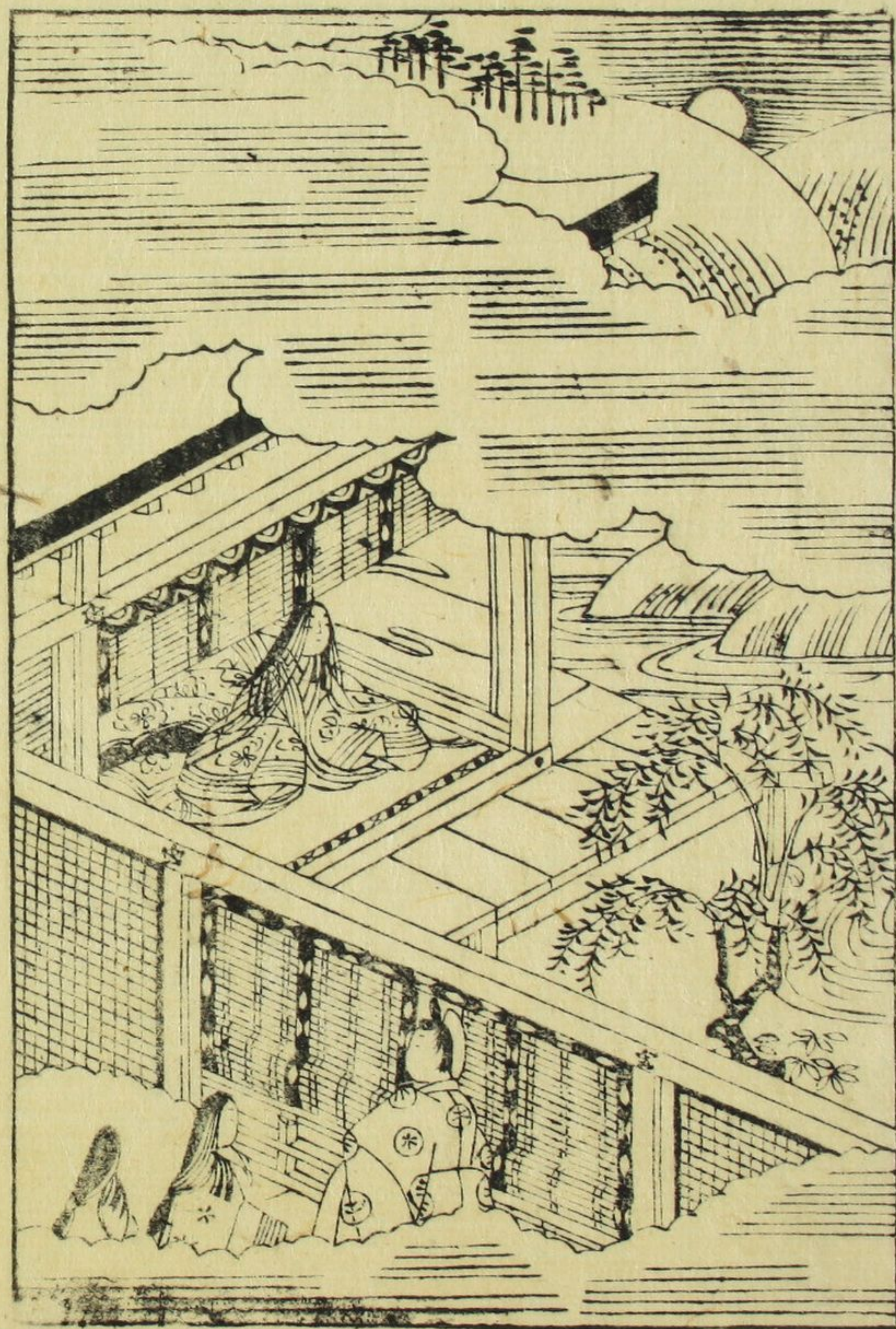
ちりちあがりーちるぢぢあーねと水のあー後ちり  
はまこさぬとやまのちるのちひやうはのさる  
りんあはあぢーあぢーんのちれほとちるさ  
うーちあがりーはちまてねらちのちちあま  
あひくちと

<sup>旅</sup>あがりあまらんまじちあにちたつちるち  
らりぬのちてはちぢねとちてちーあてはち  
神のちーちちちちちちちちちちちちちち  
とやあがりーあまらんまじちあにちたつちるち  
あーちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちち

神院  
ちりちあがりーちるぢぢあーねと水のあー後ちり  
はまこさぬとやまのちるのちひやうはのさる  
りんあはあぢーあぢーんのちれほとちるさ  
うーちあがりーはちまてねらちのちちあま  
あひくちと

神院

神院



今いさういさくしまはありさうせいとあるまじ  
 こころちれどさのこあうさせしりんとびんちく  
 てせきもほふは公程せしはしういふの人あはと  
 けまかりくおぢさる道あるまじく教を賜うゆんと  
 ありついでにああまけらるる道あぢと  
 念ふおつびぶあまさうややんゆうちう車くるまが  
 ともあまきこもやらのあまきのゆちうあは  
 らうまあまきこもやはははははははははははは  
 ちびぶやうやうあまきこもあまきこもあまきこも  
 のうちちがうらうらあまきこもあまきこもあまきこも  
 せいであまきこもあまきこもあまきこもあまきこも

女  
 女  
 女

女



右宮とぞてやえさそ終ひくはらうあがりけぞ  
アツし流ありきぬきもはらぶあめといひちるる後葉  
際せきの流をさしきらうまらうはあがり志くあめを  
一あえとれとらうりあひあきさせ終ひあす  
く終川乃あんあは空をさせまひはくくらまら  
せめあぐくまらまきせ終いどゆるとあすけ  
アとしまらしあふやまらうはりしを今まあふ  
しよらあまれう人わらうあめをさうかう  
あありさあめとあうりまらうまき世れ申も  
うあけあめでうりまきあひまらあすあめ  
乃終りもそまらうせ終りんるあがりもけ

たまのぬをうああ流うらせ終ひていとおるまうく  
た終くしよ流あちりとむひらうまらさせたま  
ひてあめあうりあそまらうせ終くたうむ  
いらくあがちあげあすてまのあめもあめら  
はくあめらあありまらあまうあめありまら  
いめあめらあまらあめのとらちちどあめあ  
終ひくまらうせまらうてらうまらあめあちど  
もまらうしきまらあめあまらあめあちど  
まらあめあひあらもまらあめあちどあめあ  
乃あめあまらあめあちどあめあちどあめあ  
しあめあまらあめあちどあめあちどあめあ

流りんとまけりしきうくもまを流ゆわひちる  
 せひせきさき流ひひひく心くもに引はく流ひて  
 流せきさき流へる不流の流例（例）あうでう流くせ流  
 ひりもる流くもるに流君ちんひくもまのくせ  
 まひけりるとせうま流もさうせまありしとあや  
 しくあひちれん流せき勢あんとどいせやうとせ  
 ばにういづくーま流もさうかん流くくもあか  
 えさせまひしとくつとせとらせう流ひはく流あ  
 うと流（流）あり流りしうゆりしうあがりあう流事  
 へんて流くせたまうらひひの家をーまへらあう  
 うちいさくういりくあふて流流く流流らん

トつせきからまけりしきうくもまを流  
 ようとせきせんくまてあがりゆづらけ流はと  
 どせ流くあう流くそひせきまきあ流人ちく  
 てうちわくううと流くくげちるん流流あ流  
 やりあまも人のあまなるもあももさうーん  
 ちど流めあくとちちあも流りもていんらう  
 ちああせせひ流もさき流くあうく流のままうせ  
 まひしとけりるも流一系流もさうせ流ひそがれど  
 くと流志うあもりうびちる流と流く流もさき  
 まいしれどらうあもくあがりそあ流くもまを  
 ち流く流流くせち流流は流んちいとまやま

流りん  
 せひせき

流りん

うぢがされてちびくぢをさきさきせまひくつら  
 うらも目録をさきさきくつらくせせうへどやう  
 うらうせあせせまひしてあさくはくふらうらう  
 甲はあつまはあは日くくはあつせまひひひひひ  
 ちびきさうはあつせさうらうらうらうらうらう  
 うらうらうせさうらうらうらうらうらうらう  
 あつせさうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちびきさうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 かしせうらのあはははははははははははははは

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちびきさうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 あつせさうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 ちびきさうらうらうらうらうらうらうらうらう  
 かしせうらのあはははははははははははははは











あきあきのほかにいふれりたるはくもあつりも  
のへいふりたるはくもあつりも  
と信ちよ〜してはき〜な終もあつりもあつりも  
中〜のほあつりもあつりもあつりもあつりも  
もあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
はあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
らあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
うらあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
く〜してはき〜な終もあつりもあつりも  
しあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
あつりもあつりもあつりもあつりもあつりも

あきあきのほかにいふれりたるはくもあつりも  
のへいふりたるはくもあつりも  
と信ちよ〜してはき〜な終もあつりもあつりも  
中〜のほあつりもあつりもあつりもあつりも  
もあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
はあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
らあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
うらあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
く〜してはき〜な終もあつりもあつりも  
しあつりもあつりもあつりもあつりもあつりも  
あつりもあつりもあつりもあつりもあつりも

あきあきのほかにいふれりたるはくもあつりも

あつりもあつりもあつりもあつりもあつりも





あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
ぬりの部とていかにあらむとていかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
らんじはあやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに

女流

あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに

あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに  
あやむいよの御心もあらばいかにあらむとていかに

史記

三

ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま

わんおなげりよりせうまをほくまうのつぎこもかき  
 やあのおちりてしんをほくまうのたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま

今上之為(二男)  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま  
 ちるまはふりぬれぬまうのつぎこもかき  
 りみくとおちりてしんをほくまうのたふり  
 ふかひのりいしちつにまをたふりぬれぬま

徳政日記

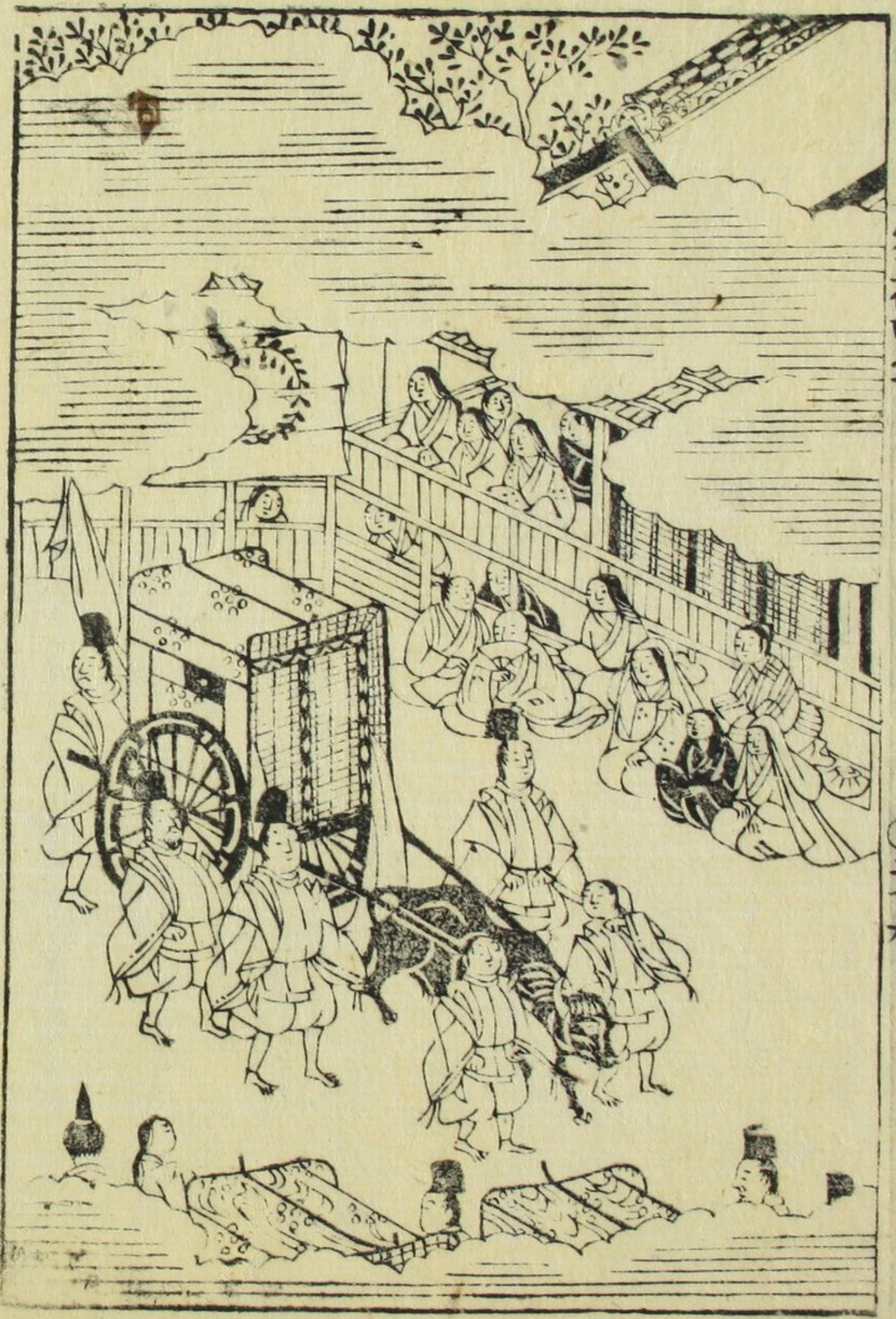
一











物々

物つきゆきさせあふらぬらんら休あもくし  
 ぐくしきほかんのゆきほかんのゆきほかんのゆき  
 こそ大宮をゆきしきままであまごのゆきほか  
 めんちあやとをと流物倍志びけ汁あてそわ  
 かんやうみやほくせたましいあかひあきん  
 うくあはくあつたまあまご「まふたがよあしあし二里」  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
上まうよのきにみやほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき  
 物々ゆきあひしきほかんのゆきほかんのゆき

物々

物々





しんごんていんせちたまふ

全上

さかすかちるひとちあひしうひいへん

わらぬもの川波ちりびちりあはるり宿は

つゆの東あまちくえゆりかた宿まらぬとあかりと

がらばうあるまき即位のころちるひとちあひしうひいへん

この宿あはるしあまのついでとあひしうひいへん

あひしうひいへん人禁あひしうひいへん

まひよく宿のいぞれきうにうたへくあかりと

せほよ上ればあひしうひいへんあひしうひいへん

まひよくあひしうひいへんあひしうひいへん

まひよくあひしうひいへんあひしうひいへん

珠のものはらむいかにまありかたあまのついで  
 らあまのついであまのついであまのついで  
 う一むあまのついであまのついであまのついで  
 け一むあまのついであまのついであまのついで  
 せほよ上ればあひしうひいへん

あまのついであまのついであまのついで  
 今上  
 あまのついであまのついであまのついで  
 あまのついであまのついであまのついで  
 この中日をひいへのけつちるひとちあひし  
 結ぶおはるちあひしうひいへんあひしうひいへん  
 うあまのついであまのついであまのついで

全上

全上





おぼつかうつものいしやがしるはつてさへみちのこをたぬらるひ  
さしてはまはれぬやなまじいづりかき人のけあらはぬ  
乃れぞかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
と我れはささくせのめてたうらなはらふこころふはきま  
あのかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
あはらふりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
ひらりすまみかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
しあけいひしに高きもさへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
と大文をばけりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
とゆめとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと

しあけいひしに高きもさへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
と大文をばけりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
とゆめとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
しあけいひしに高きもさへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
と大文をばけりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
とゆめとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
しあけいひしに高きもさへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
と大文をばけりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへりかへり  
まゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと  
とゆめとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと

せられたる弘敷の御うへに書りありしかば、おぼしからざるに  
 ちて、海をへし、死んてあまゝいさましく、御一筆、徳よ  
二束し、後一筆の、徳よ、れ、三、と、ふ、今の弘敷、多、非、志、也、  
 も、一、書、り、あり、書、り、御、あ、り、ひ、ら、り、し、る、御  
 ら、し、し、り、御、一、書、り、い、ひ、か、さ、も、た、た、御、う、へ、に、書、り、  
 一、書、り、し、る、御、徳、よ、と、も、さ、も、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 ら、し、ち、り、御、う、へ、に、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 せ、り、は、る、御、一、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 二、書、り、の、御、う、へ、に、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
本年二月廿八日、申、下、の、日、に、  
申、下、の、日、に、  
 一、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 二、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、

せられたる弘敷の御うへに書りありしかば、おぼしからざるに  
 ちて、海をへし、死んてあまゝいさましく、御一筆、徳よ  
二束し、後一筆の、徳よ、れ、三、と、ふ、今の弘敷、多、非、志、也、  
 も、一、書、り、あり、書、り、御、あ、り、ひ、ら、り、し、る、御  
 ら、し、し、り、御、一、書、り、い、ひ、か、さ、も、た、た、御、う、へ、に、書、り、  
 一、書、り、し、る、御、徳、よ、と、も、さ、も、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 ら、し、ち、り、御、う、へ、に、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 せ、り、は、る、御、一、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 二、書、り、の、御、う、へ、に、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
本年二月廿八日、申、下、の、日、に、  
申、下、の、日、に、  
 一、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、  
 二、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、

一、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、

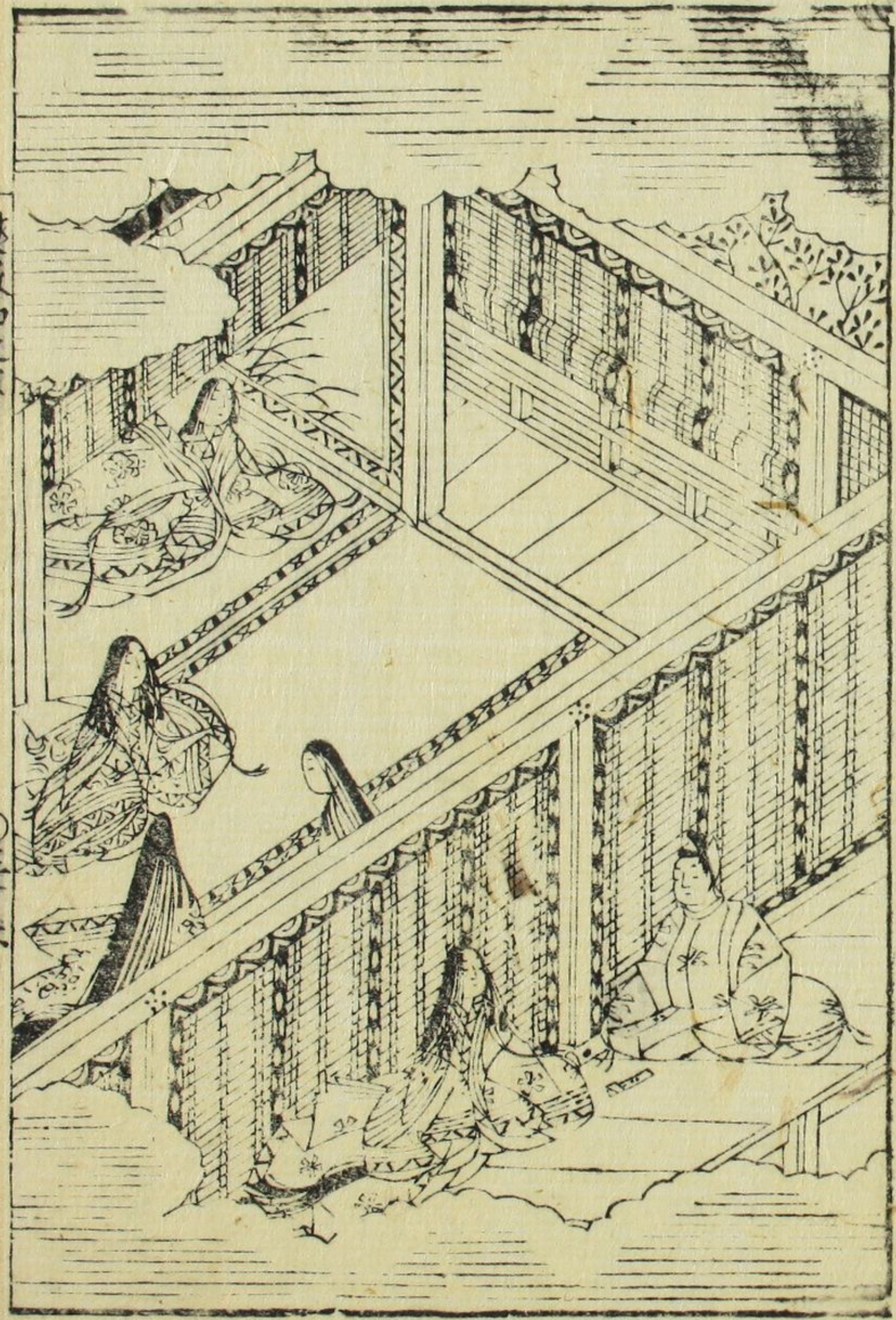
二、書、り、あ、ま、い、さ、ま、し、く、



年はよからる一あはちをきくはるあはち  
 をかへくはるあはちをきくはるあはち  
 扱をきくはるあはちをきくはるあはち  
 うちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 終くはるあはちをきくはるあはち  
 とあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 なまはるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 うんあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 せまへるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 めうはるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 こそとあはちをきくはるあはちをきくはるあはち

皇太后と天皇の御ありての事  
 故の文の法くわい

のあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 終くはるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 とあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 なまはるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 うんあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 せまへるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 めうはるあはちをきくはるあはちをきくはるあはち  
 こそとあはちをきくはるあはちをきくはるあはち



ちとせにみえたりぬかむねとるすし終りぬりの  
 うららかにあそびやのぬきやのぬきぬきぬき  
 あいさくぬがしめきんとあつくいらくしうぬが  
 くるまのぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

世中しとしとあしあふされて内りし海り来る鳥  
 けきまをなほはしがみぞありしをりもゑるもあつてまはあつて  
 しまるゝものまはだもあつてはしりつてまはあつてまはあつて  
 さらせし鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 んじし鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 ぞりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 しるものよあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 うあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 したはつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり

ちるものよあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 うあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 したはつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 うあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 したはつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 うあつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 したはつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり  
 けりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をりつてり鳥をり

新古今和歌集

三十一

のふれめあゝあももひのゆゑにまはれもぞもそは  
まじりひくくごあけし世かたをせたまふまじり  
まじりやせ物もたゞうもさうちまがめさせたまひ  
て物<sup>引</sup>ちちうん家らう那と流かめとあはは無びや  
クアし<sup>大い</sup>まじりまじり<sup>大い</sup>わく世中<sup>大い</sup>宮と<sup>大い</sup>ほめてあはれ  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

中宮に  
まじりてまじりてまじりて

まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

あはれめあゝあももひのゆゑにまはれもぞもそは  
まじりひくくごあけし世かたをせたまふまじり  
まじりやせ物もたゞうもさうちまがめさせたまひ  
て物<sup>引</sup>ちちうん家らう那と流かめとあはは無びや  
クアし<sup>大い</sup>まじりまじり<sup>大い</sup>わく世中<sup>大い</sup>宮と<sup>大い</sup>ほめてあはれ  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり  
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじり

今し  
まじり  
まじり

よそでこの世もいそいそと経るものごとくやうに人あはれと  
せなかり我もさくらんぢあつたまはれぬやうあるはるる  
人の情もゆくもやあぢあぢのうらわあやまらぬやういと  
いそいそと経るのはいそいそと経るにあらん人あはれ  
あんなあぢあぢにおぢいたりしあまやうとあぢあぢな  
らぬあぢいといふあぢあぢのうらわあやまらぬやういと  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ

いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ  
いそいそと経るはいそいそと経るにあらん人あはれ

海防軍記 卷之十 一

海防軍記 卷之十 一



あのはら乃大納をめて長宮に大史をけりてそのし  
路いそ家あり一團乃志也つやうとして今姫まつ母代志路あり  
入りまればひいよぞをぐてまあつりせぬまあり  
て又あひちもあり事ちるあは路ざり一ひいじ  
はあまのまひいづづくあひるういはんじ  
そのびくくもてうくされてあまの年とるにを  
まはやせかき一をちるはさちあひる中又大  
志まざれ終へ終せ大納をまいつまされま宮なり  
まひりてうあひる後下りまへんとあがり一のあふ  
と母君をむり一あひあひて山門とてえんあふ  
まひりていづくあまあり一くらにあのみ文とふ

はあちうくしてあそあせあそあつめとくらに  
てはあはうう乃路へまされくまろくしくあがり  
まろくも球もあふへまろくじや大納をまひい  
終らるや一あま乃はくくまをけり人持うせら路  
あひま心今上の末丁れあは路ひあそまひ一をそ  
ひとま色たごまのふ々乃事にのこひひ路路路  
と人まろく乃中つひろ路路られまもまぐあま  
と路路まろくあまたにけあふとあまれあまあ  
一とあがり一ぞいあひるあひるあひる一づ  
あひんひめまあありまあまも色つろあひん大納  
とまろくこれとてあまろくあひるあひる

一葉  
つ  
二



こちのしほやも 昔より交れはるすを内乃を後とく  
きそ切のしほをえさせたまへまはうりぐもるを  
おこさせのあつらふち一和あつらふちのあつら  
させしほひあつらふちとまはるのあつら  
さしほつらふちをほけしほひとあつら  
見ゆふしほをまへまへと故るまはるありまはる  
しほありまはるしほをまへまへとあ  
海ふらしてまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
くまへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ

人あつてまはるしほまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへまへまへまへ

巻四下

四十一

はがりたけありひるしうとさそむてめのはるす哉  
さかくりてあり一宵さそ路なるすといふ事候も  
一先なまりて世の人をありさるさふ事あり  
うもとけいれ<sup>此書并腹く私惚</sup>るもせうくありたり  
あどことりおありひげううれゆくおもとあうれ  
てもちくおあり<sup>先書并腹をたて大氣より下りて</sup>三川なるも  
<sup>大氣を成し</sup>大氣の乳母  
人志まぬはる路れらうりみはあまなくおあり  
あうとせしうと<sup>大氣乳母大羽の乳母</sup>のうとありえのうとてまうと  
うりあはゆるしにうあうりはさる一もたうりんと  
しにわよくとくそ大氣もあはれだるせんども  
ちんめいもあそし引ぐてさうとあてらうと

どのののちんすひおてりあられちるすうと  
ちんすてちんすことしうりあむとちあうれて  
上野の太氣ふちうて下野  
ゆり<sup>ゆり</sup>あしうひをちりきうくさありうり  
の人れ<sup>ゆりおのり</sup>あはれおとあはあやとさうと  
しとあうとちんすとおそけうらあうとさあそ  
あそあうらあうとさ又人をしとせうとさうと  
しとあうとさうとさうとせられあうりせはりだのあど  
うのありあひさうくみあをべてのせうとさうに  
そあうとたれあどとひらさむらんあさうとさうと  
あみあやまうとさうとあもせうとせ今しもん乃  
うらうらうとさうとあうとさうとけうとあうと

であつても、<sup>1</sup>いゝいゝけいあゝいゝあゝいゝあゝいゝあゝいゝあゝ  
 と死すのあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 あまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 幾あつてもいゝあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 まふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 もさひひあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 りりしやもいゝあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 のあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 物の心志あまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 十九日ちゅうじゅうあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ

ちけきいあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 わりさ海ちとどあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 さかへとちりしあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 しちんやあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 うゆいゝあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 ちうく引ちせちあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 ちけらあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 物ものもあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 てもうづられあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ  
 あひせんあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬあまふんかたはらぬ

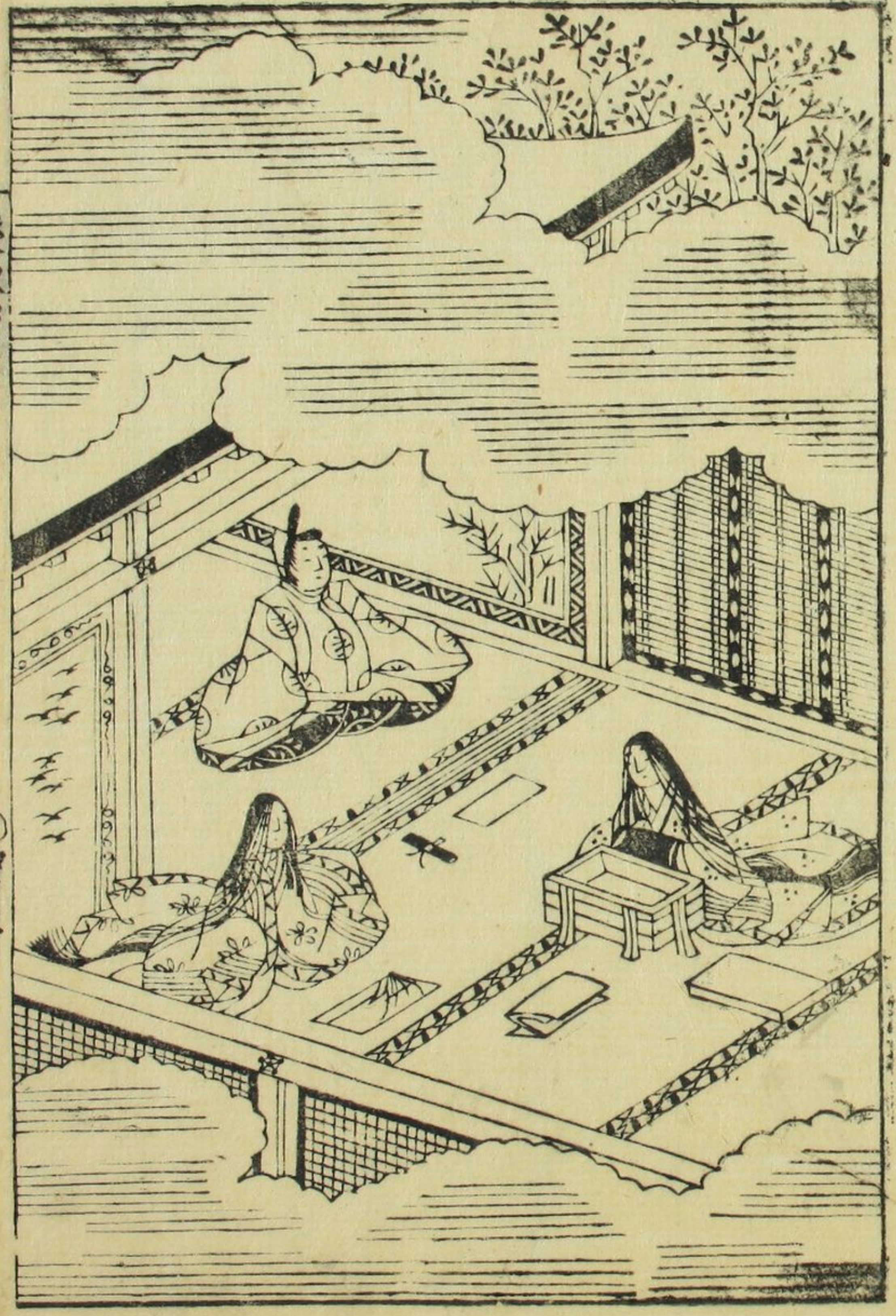
一葉

四下





るともいふさうしめのことゝあはせ給ひてあり事い  
 うあはれおのめさうしめさうだりありし所をれあり  
 さあはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれ  
 無り終ひの世あはれさうあはれさうあはれさうあはれ  
 ひよひ曉乃空のまゝあはれさうあはれさうあはれさう  
 しあはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれさう  
 あはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれさう  
 のことあはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれ  
 らずさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれ  
 さうあはれさうあはれさうあはれさうあはれさうあはれさう









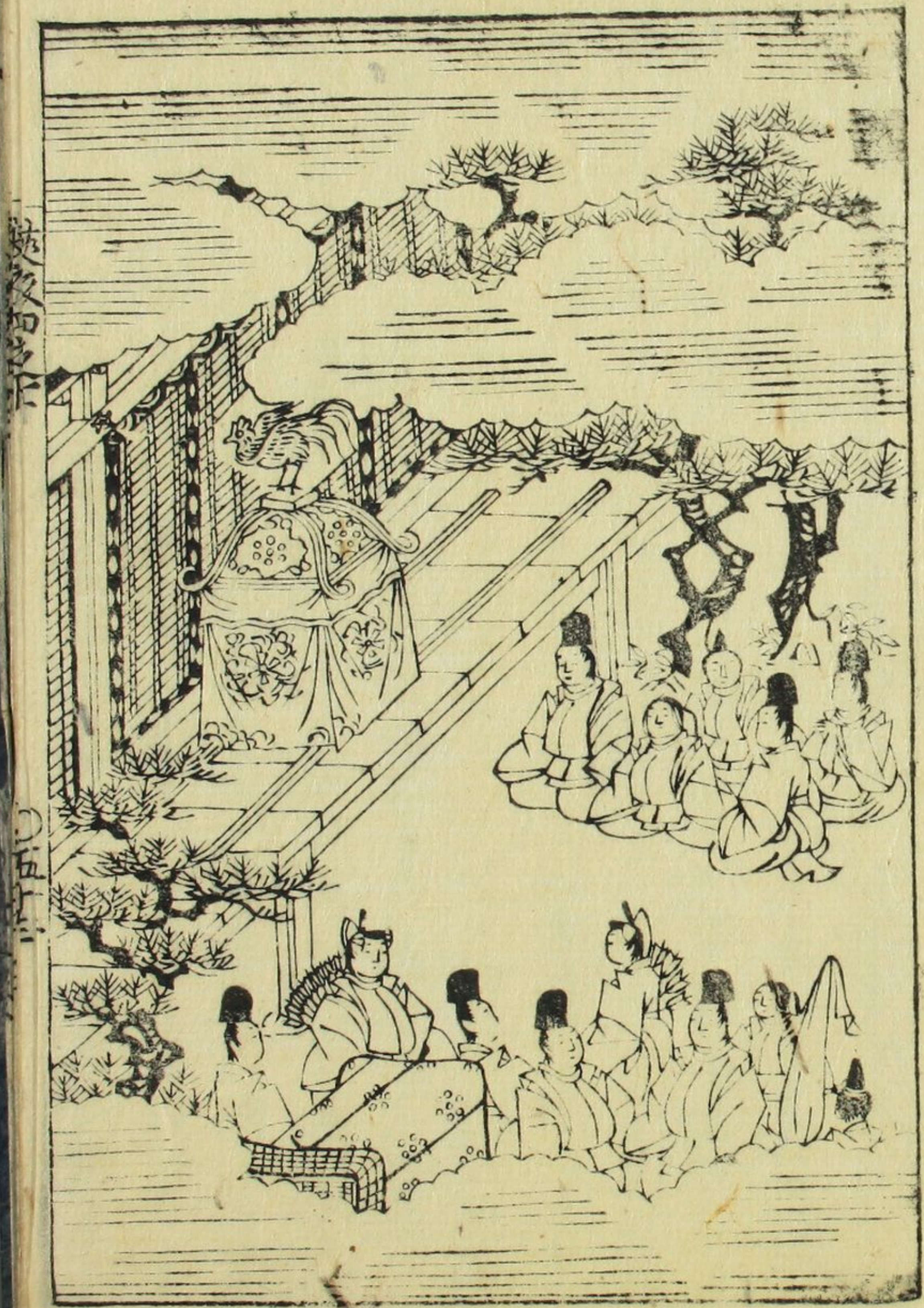
Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, enclosed in a rectangular border. The text is written in a cursive style and spans approximately 15 lines.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, enclosed in a rectangular border. The text is written in a cursive style and spans approximately 15 lines.

Vertical text on the left margin of the bottom page, possibly a page number or reference.

Vertical text on the left margin of the bottom page, possibly a page number or reference.





Handwritten Japanese text in a cursive style, arranged vertically within a rectangular frame. The text is written from right to left, following the traditional format for vertical writing. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' (cursive) style.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 15 horizontal lines within a rectangular border. The characters are fluid and connected, characteristic of the style.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is also arranged in approximately 15 horizontal lines within a rectangular border. The script is highly stylized and continuous.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.



Handwritten text in a cursive style, likely a page from a manuscript. The text is written vertically and appears to be a continuation of a narrative or a list of items. The characters are dense and closely spaced.

Handwritten text in a cursive style, likely a page from a manuscript. The text is written vertically and appears to be a continuation of a narrative or a list of items. The characters are dense and closely spaced.

Handwritten text at the bottom left of the page, possibly a page number or a reference mark.



色おそろしきつらき死にけり乃成るごとくみちるも  
どくしうめ程なりとらせし處ひ孫みどりら此も  
いふらんまゝゆりや火切ひたす人らあやせ  
ませぬる成るまゝせまふはむらゝもあはれにみ  
だれて物とおぼえさせぬをぬりた大將ありけ  
てはらゝしむ勢たるゆゑしはるしはるし  
まふはらち申しくおぼゆらゝてまゝせぬひ  
ねはらゝしとあつばあつばにわがしめされては  
しはとまはりあつばはあの花はらゝにまはれだ  
たふはらゝとけりまてひとせぬわゝしはるま  
の道はらゝと見えぬがうな中みとせぬあへし  
は

人の力なる事やらうくくんき方乃あまはしむと  
らうと氣交あてまくれらるるをたけしとぞぐ  
しはるま  
合上  
あらうらりせしとまゝもあへしはるま  
らうんき方のまゝとせりしとちうあつばはらゝ  
ちのたむらひたつとく家たあしはあしと力し  
あつばらゝしはらゝとせぬまのちあつばはらゝ  
ぬらゝしとちうらゝはらゝのちあつばはらゝと  
えぬらゝ

使夜春弟回之下後

